

## 6月の植物

### サルナシとマタタビ (マタタビ科)

学名：サルナシ *Actinidia arguta* マタタビ *Actinidia polygama*

サルナシは野山に生えるつる性の樹木で、秋になるとキウイフルーツによく似た果実をつけます。果実はそのまま生食できるほか、ジャムや果実酒などにも利用されます。

サルナシの花が咲くころ、よく似たマタタビも白い花を咲かせます。マタタビは花の時期になると枝先の葉が白くなるため、初夏の山中でひときわ目を引きます。サルナシとマタタビの果実はどちらも食べられますが、人が食べて特においしいとされるのはサルナシです。この時期に花を見つけて場所を覚えておけば、秋に果実を探すのは簡単です。ただし、サルナシには雄株と雌株があり、雄株は花を咲かせても果実はつけないため、花のつくりをよく観察しておきます（写真は雌株の両性花です）。

花の時期が終わると、マタタビの白い葉は緑色に戻るため、一見ただけでは両者の見分けは難しいかもしれません。そのときは、茎の断面を観察すると、サルナシは「茎の中心が中空で、内部に薄い膜の仕切りがある」のに対して、マタタビは「茎の中心部まで詰まっている」ことが見分ける手がかりになります。

佐賀県内では、このほかにウラジロマタタビとシマサルナシも記録されています。6月はマタタビ属の仲間を観察するのにおすすめの季節です。  
(文責：松田朋子)



左【サルナシ】花・葯は暗紫色（佐賀市 脊振 2016.6.2），果実（太良町 2016.9.25）

右【マタタビ】花・葯は黄色（佐賀市 脊振 2016.6.11），果実（太良町 2016.9.25）

【参考文献】「身近な草木の実とタネハンドブック」（文一総合出版）「佐賀県植物目録」（佐賀植物友の会）